

地域住民との協働による絶滅危惧種シロチドリの保全

～地域のシンボルバード シロチドリ～

緑環境景観マネジメント研究科

○教授 ふじはらみちろう 藤原道郎、客員研究員 はら あやな 原 彩菜

キーワード

砂浜、越冬個体数、繁殖状況、淡路島ちどり隊、広報、環境学習



研究概要

百人一首でも詠まれ、また淡路市および洲本市の鳥（ちどり）の主要種であるシロチドリ (*Charadrius alexandrinus*) は、現在、環境省の絶滅危惧Ⅱ類、兵庫県レッドデータ A ランクと絶滅危惧種となっています (図 1)。そこで淡路島での越冬個体数、繁殖状況 (営巣場所、抱卵・育雛期間) を現地調査から明らかにし、地域住民との協働による継続調査、保全活動および環境学習活動を行いました。淡路島での越冬個体数は 1969 年頃と比較し約 3 分の 1 に減少してしました (図 2)。シロチドリの生息のためには春から夏の砂浜と海浜植生の保全の重要性が明らかとなり (図 3)、ビーチクリーン (機械を使わない) や地域活性化活動を行っている地域住民などが参画した淡路島ちどり隊が結成されました。保護エリア、保護柵の設置などにより繁殖・巣立ち成功につながりました。



図 1. シロチドリの特性

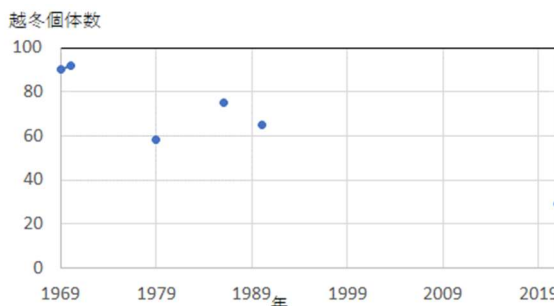


図 2. 淡路島全体 (成ヶ島除く) におけるシロチドリの越冬個体数の変化. 1969～1990 年は山崎(1991)による。

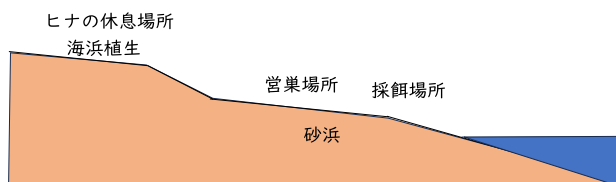


図 3. シロチドリの生息空間 (繁殖期). 機械による清掃や過剰な人為の利用は繁殖を妨げる。

アピールポイント

海岸の日常利用者が調査や保全活動に参画できることが示されました。行政への説明会による行政との協力体制や、公共図書館での展示・紙芝居上映、小中学校での環境学習による次世代への教育など、また行政広報誌 (広報あわじ 5 月号特集)、新聞特集記事 (神戸新聞特集「里へ」10 月号) での取材掲載により認知度の高まりがみられ、海のフォーラム招待講演、学会シンポジウム講演も行われ、調査研究活動をもとにした自然環境の地域資源化が期待されます。